

住み慣れた いたばしに いつまでも ～助け合い・支え合いの地域づくりに向けて～

板橋区おとしより保健福祉センター



平成30年10月版

【生活支援体制整備事業・地域づくりセミナー】

1. 板橋区地域包括ケアシステム（板橋区版AIP）

2. 生活支援体制整備事業の概要・取組方法・予定

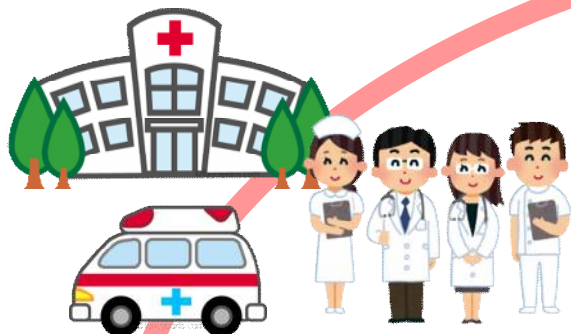
3. よくあるご質問

1. 板橋区地域包括ケアシステム (板橋区版AIP)

高齢者を支える地域像（地域包括ケアシステムの仕組みづくり）

病気になったら…

医療



- 病院
急性期、回復期、慢性期
- 日常の医療
 - ・かかりつけ医
 - ・有床診療所
 - ・地域の連携病院
 - ・歯科医療
 - ・薬局

住まい



入院
通院

診療
医療サポート

介護サポート

通所
入所



・自宅 など

社会参加

場などの提供

サービスのコーディネートや
相談業務を行う。

- ・地域包括支援センター
（おとしより相談センター）
- ・ケアマネジャー



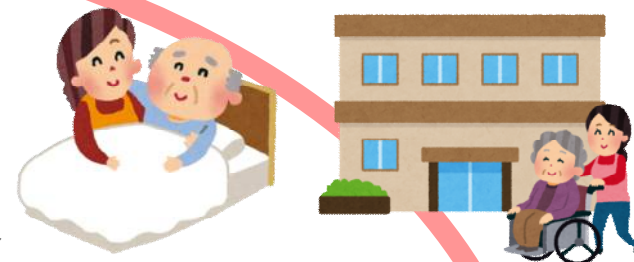
- ・町会・自治会、老人クラブ
- ・ボランティア、NPO など

いつまでも元気に暮らすために…

生活支援・介護予防

介護が必要になったら…

介護



● 在宅介護サービス

- ・訪問介護（ホームヘルプ）
- ・訪問看護
- ・通所介護（デイサービス）
- ・小規模多機能型居宅介護
- ・短期入所生活介護（ショートステイ）
- ・福祉用具 など

● 介護予防サービス

● 施設・居宅介護サービス

- ・介護老人福祉施設（特養）
- ・介護老人保健施設（老健）
- ・認知症共同生活介護（グループホーム） など

板橋区の地域包括ケアシステムは
概ね各地域センター担当圏域を
想定している（全18地域）

◎ A I P（Aging in Place）

⇒ 年を重ねても安心して住み慣れたまち（地域）に住み続ける

【出典】東京大学高齢社会総合研究機構「地域包括ケアのすすめ」

◎ 板橋区版 A I P における重点事業

① 総合事業／生活支援体制整備事業

② 医療・介護連携

③ 認知症施策

④ 住まいと住まい方

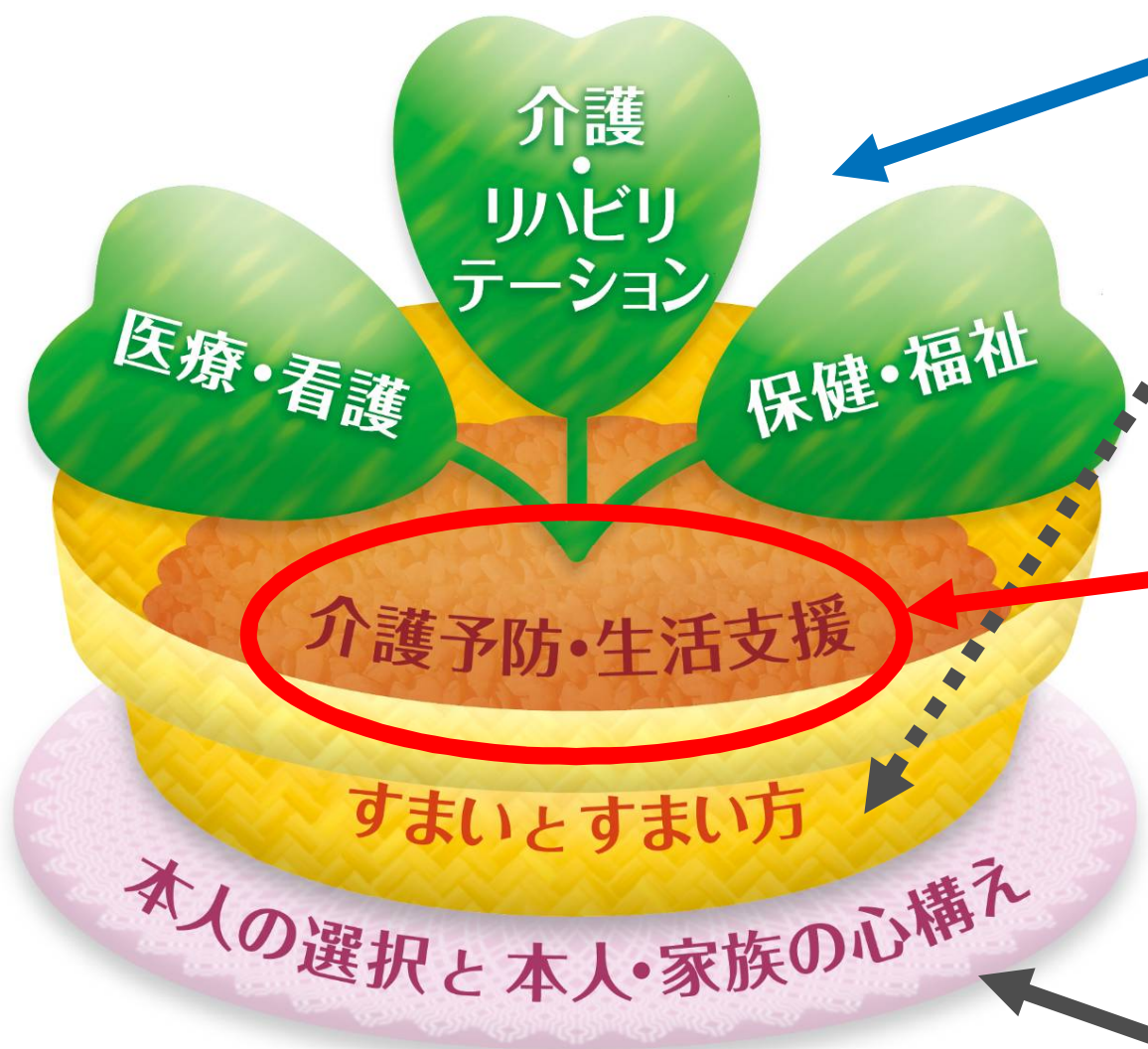
⑤ 基盤整備

⑥ シニア活動支援

⑦ 啓発・広報

※国の重点事業を踏まえて、7つの分野を重点事業とし、分野ごとに課題の整理・解決を行い、これら事業を**有機的に結び付ける**ことにより板橋区版 A I P の構築をめざします。

【参考】地域包括ケアシステムを構成する要素



少子高齢化の中で増える《ケア》の問題
に備えるために「葉」を大きく育ててい
く必要がある。そのためには…

- ①生活の基盤となるすまいとすまい方が
「鉢」のようにしっかりとする。
- ②養分を含んだ「土」となる一人ひとりの「介護予防」や市場サービスや助け
合い活動を含んだ幅広い「生活支援」
が充実する。

全ての基礎（植木鉢の受け皿）として、
各個人は自ら選択し、その家族を含めて
心構えを持つ。

2. 生活支援体制整備事業の概要・取組方法・予定

生活支援体制整備事業の概略イメージ

【事業の大きな「ねらい」】

- ・ 地域の高齢者が支え合い活動等へ社会参加することを促す
- ・ 地域の支え合い活動等を充実・強化・創出する
- ・ その地域ならではの支え合いの仕組みづくりを推進する

まとめると「地域づくり」

協議体

…地域の活動者、つなぐ活動者、支援の活動者が「ワイワイガヤガヤ」話し合う場

(茶話会・井戸端会議)

(支え合い会議)

【地域の活動者】

地域の世話好きさん
伝統などに詳しい物知りさん
地域に暮らす住民 など

【つなぐ活動者】

多様なネットワークを持つ人
地域や専門職をつなぐ人 など

【支援の活動者】

制度に基づくサービスの提供者
組織化された活動の活動者 など

生活支援コーディネーター

(地域支え合い推進員)

…人と場、人と人、人と支援、思い・心、情報など様々なものをつなぎ、多様なネットワークを育てていく「つなぎ組み合わせていくプロ（調整役）」。

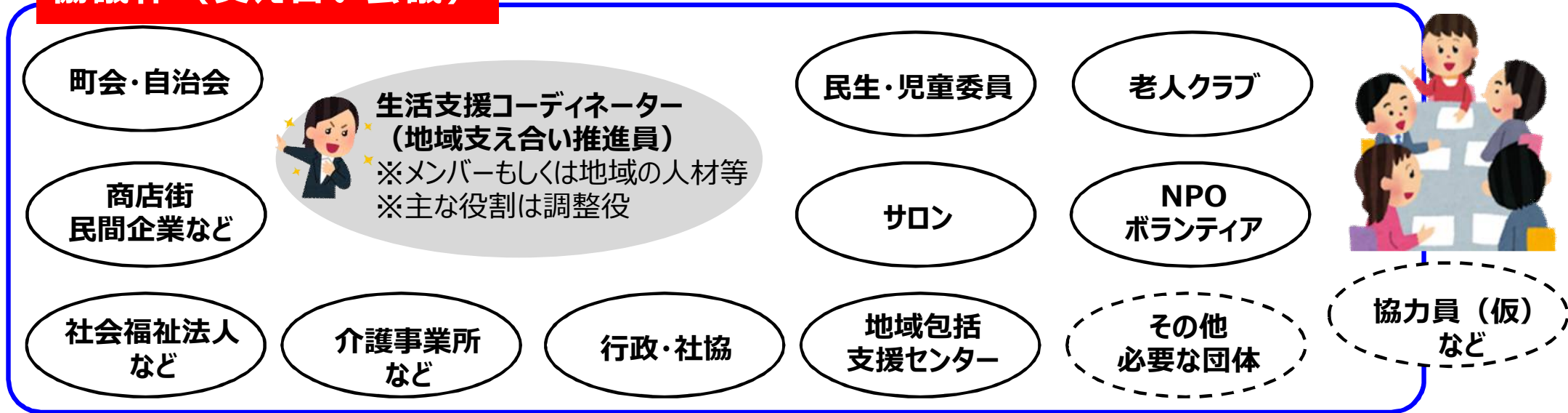
協議体と協働しながら、地域に入り、人々の暮らしの中にある様々な知恵や工夫、技を見つけ出し、意味づけて、周囲に見える化する。

生活支援体制整備事業の概要①

◎地域のみんなの力を集結する取り組み（協議体と生活支援コーディネーター）

協議体（支え合い会議）

※（一例）協議体のメンバーは地域によって変わり、多様な主体がメンバーとなる。



【協議体（支え合い会議）】

⇒ 地域の多様な主体がメンバーとなり、今やっていることや無理なく今できることなどをみんなで話し合う仕組み。

【生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）】

⇒ 協議体と協力しながら、自分たちのまちをより良くしていくために、地域の様々な活動をつなげ、組み合わせる調整役。

生活支援体制整備事業の概要②

◎ 協議体（支え合い会議）で何を話すの？

既にある支え合い活動など地域の情報を共有したり、将来に向けて「自分たちのまちをどのような地域にしたいか」などを話しあったりします。

その中で活動同士のつながり、見守り活動、趣味や体操等による居場所づくりなど、**その地域ならではの支え合いの仕組みづくりをできる範囲で考えます（できること探し）**。

◎ 誰が生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）になるの？

協議体のメンバーもしくは地域の人材等から協議体の互選により決めます。複数人でやったり、地区内の団体が担うなど地域の特性に合わせて様々な形があります。



① 地域情報の共有&できること探しをする「協議体（支え合い会議）」

② 調整役となる「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」

をいきなりつくるのは難しいため、次のようなステップで立ち上げていきます。

取り組み（協議体立ち上げ）のステップ

①準備

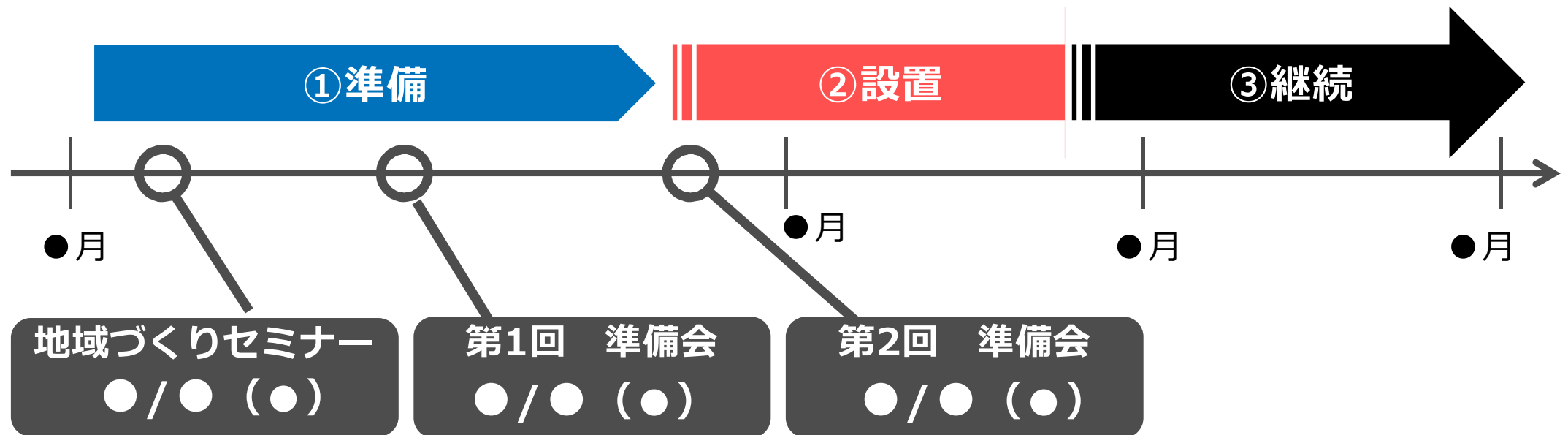
地域の助け合い・支え合いを考えていくために、セミナーや準備会を複数回開催し、各地域の協議体をどのようにつくるかを話し合います。

②設置

協議体の運営方法や生活支援コーディネーターの選出等を話し合います。

③継続

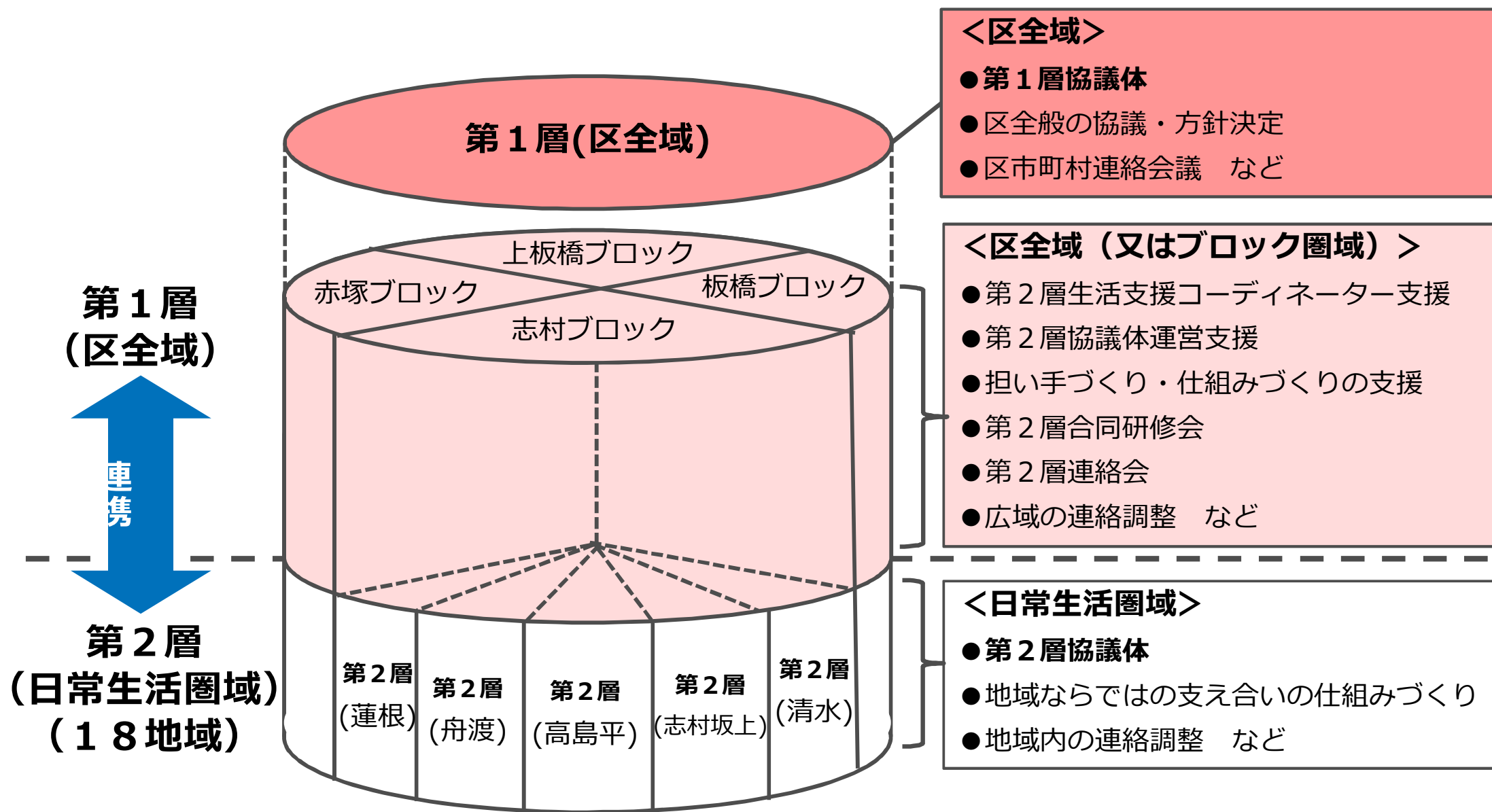
無理のない範囲で継続をしながら、その地域ならではの支え合いの仕組みづくりを考えます。



※以降、協議体の設置に至るまで必要に応じて準備会を開催予定です。

【参考】板橋区における地域区分：全域（1層）と日常生活圏域（2層）

板橋区全域を「第1層」、日常生活圏域（概ね各地域センターの担当区域）を「第2層」



【参考】生活支援体制整備事業の推進体制

本事業の**全体管理及び板橋区全域（第1層）の生活支援コーディネーター**については、以下の理由から、**社会福祉法人板橋区社会福祉協議会へ委託**しています。

今後予定している取り組み（協議体立ち上げ）の各ステップにおいて、**板橋区及び板橋区社会福祉協議会が協力体制を取り、行政・社協としてできる支援をしながら、皆さんと一緒に取り組んでいきます。**

- ① めくもりサービス（住民同士による有償福祉サービス）、福祉の森サロン、ゆるやかご近助さん養成講座など**地域に密着した助け合いや生活支援サービスの実績・提供ノウハウがある**
- ② 社会福祉法第109条において規定された市区町村圏域に唯一の公益的かつ公平中立な民間福祉団体として、**公益的活動の視点及び公平中立な視点を有している**
- ③ 地域住民や福祉団体などの地域の多様な社会資源の力と協働し、**支え合い・つなが合いの福祉のまちを目指した「地域福祉活動計画」を策定**しており、目的が合致する本事業を適正に運営できる

3. よくあるご質問

質問 1 | 協議体は何をするのか？（5W1H式）

- ① 【なぜ】 超高齢社会（元気な高齢者も増える）を迎えるため
- ② 【誰が】 協議体のメンバー（多様な主体）が中心となり
- ③ 【何を】 地域の支え合い（互助）を
- ④ 【どうする】 推進する（広げていく）
- ⑤ 【いつ】 無理のない範囲で定期的に継続しながら
- ⑥ 【どうやって】 **やり方は決まっていない（それを話し合う）**

⇒ **大枠（大きいテーマ）だけ決まっていて、細かいことは決まっていません。**

⇒ 長い時間をかけて取り組むもので、即効性が求められているわけではなく、
できる範囲で定期的に継続していきます。

⇒ 例えば自分たちに介護が必要になる時にどういう地域だとよいか／できる限り介護が必要にならないようにするためにはどういう地域だとよいか等を話しながら、
地域が元気になるために自分たちが「無理なくできること」を話し合います。

質問2 | 協議体のゴール（目標）は何か？

- ① 「支え合いの地域づくり」にゴール（目標）はありません。
- ② 一つ挙げるとすると、**「目指す地域像」に向けた「情報共有の継続」と「できること探し（協働）」**が大きなゴール（目標）となります。
- ③ 一つ一つできることを話し合い、階段を登っていくようなイメージで、継続しながら、できることをやっていくことが大切となります。
- ④ 大きいゴール（目標）である「目指す地域像」以外に、小さなゴール（目標）を協議体において定めることも有効な手段となります。

質問3 | 継続していく協議体について運営の補助はあるのか？

事業費等を含む、第2層運営費を以下のとおり設定しています。

- ① 1地区当たり年最大**120**万（**10**万×**12**月・社協から支払う）

※年度末に清算となる

※今後の予算により、金額の内訳・用途（条件）等を変更する可能性があります

- ② 第2層に関する事業費（調査研究費、広報費、行事費、事務費等）と、
第2層協議体の運営費（会場費、事務費等）が対象となる

※詳しい対象経費は別途定める「第2層活動の手引き」のとおり

質問4 | 誰が協議体のメンバーになるのか？誰が決めるのか？

- ① メンバーは「**地域の多様な主体**」となります。
- ② 本資料ではあくまでメンバーとして可能性がある各主体等を例示しているだけであり、セミナー・準備会の一連の流れの中で、協議体の規模や構成等のあり方を検討しながら、参加している方と**一緒に初期メンバー**を決めます。
※準備会で話されることを基に、協議体の初期メンバーとなる者を決める（立ち上げ）
- ③ 協議体が動いていく中で、メンバーの追加・変更をしていくことも可能です。
- ④ メンバーがなんらかの理由で参画できない場合の**代理参画**や**同様の主体で**チームをつくり、**交代しながらの参画**など各地区で具体的なあり方を検討することも可能です。
- ⑤ 協議体のメンバーにならない人・なれない人は、**メンバー以外の立場で協力**（メンバーを支える立場や現場の担い手として応援）することが考えられます。

質問 5 | 協議体の開催時間・方法は決められてるのか？

- ① セミナー・準備会については開催時間を予め指定しているが、協議体の趣旨を鑑みると、開催時間・方法を含めあらゆることについて「**地域（協議体）**」**で決めていく**こととなります。

※質問1のとおり「**やり方**」は決まっています。

※先行している地区の協議体は、概ね月 1 回の頻度で都度日程を決めているところが多い。

- ② そのため、準備会～協議体設置当初は**協議体を継続運営できるための「あり方」の検討**をある程度行う必要があります。

質問 6 | 協議体の事務局は誰が担うのか？

① 協議体の事務局（調整役）は **ＳＣ（生活支援コーディネーター）** が担うことを想定しています。

⇒ ＳＣ活動報酬内に事務局・調整役としての活動費を含んでいます。

※第２層ＳＣは地域内の連絡調整・第１層との連携等を担うために、

ＳＣ活動報酬として月額１５万を予定（配置後に社協から後払い）

※今後の予算により金額の内訳・用途（条件）等を変更する可能性があります

② 必要に応じて、**ＳＣ以外の者（主体）** が事務局機能を**担う**ことも**可能**。

⇒ 事務局としての調整機能や活動費用は、協議（相談）の上で決定します。

※第１層ＳＣである「板橋区社会福祉協議会」は第２層協議体の運営の後方支援（事務局の補佐などできうる支援）を担います。

質問 7 | 町会・自治会や民生・児童委員の活動との違いは何か？

町会・自治会	会費収入等で地域の防犯・防火・防災、環境美化・リサイクル、交通安全、地域交流（祭など）、青少年健全育成などの活動を行う。 その他、行政情報や地域情報等を回覧板・掲示板でお知らせする。
民生・児童委員	生活に困っている方やお年寄り、障がい者の方々の身近な相談窓口（時には相談機関へのパイプ役）として、相談・支援などの活動を行う。
協議体	町会・自治会や民生・児童委員だけではなく地域の関係者（各活動者）を含めた「多様な主体」が集まる。 既存の活動は継続しつつ、多様な主体で地域について情報共有をして、支え合いを推進するために無理なくできることを探していく場となる。

質問 8 | 協議体で具体的に何をするのか？（例 1）

例 1：気軽に体操できる場を地域に増やす

背景

みんなができるだけ健康で居続けるために、気軽に体操できる場を身近なところに増やせないか？と話があった

情報共有

- ・ 地域にどのような体操の場があるか
- ・ 地域にどのような体操の場が必要とされているか など

わかったこと

- ・ 地域内のA公園で週に 1 回介護予防体操をしているが、メンバーが固定化してマンネリ気味、人が集まりにくい等の課題がある
- ・ 意外と体操の場のニーズが多いが、実際にできる場は少ない など

できること探し（アイデアなど）

- ・ 地域の視点でもっと人が集まりやすくなる工夫を話し合う
- ・ 良い取り組みだから、地域内の他の公園でも広げてみよう
- ・ ●●病院のリハビリ職を知っているが、リハビリ職などの専門家から学ぶことで、何かしらの工夫を加えた体操のプログラムにできる など

質問 9 | 協議体で具体的に何をするのか？（例 2）

例 2：地域の情報を見やすくまとめて紹介する

背景

地域で様々な活動があるが、具体的な中身までよくわからないため、地域における活動の情報を見やすくまとめて紹介することはできないか？と話があった

情報共有

- ・ 地域にどのような活動があるか
- ・ その活動は高齢者の生活のどんな場面で参加／利用／活用できるか など

わかったこと

- ・ フォーマルからインフォーマルなことまで多種多様な活動がある
- ・ 民間企業等が独自に行っているサービスも多い
- ・ せっかくの良い活動も地域の人には意外と伝わっていない など

できること探し（アイデアなど）

- ・ 地域の視点でわかりやすい情報のまとめ方を話し合う
- ・ まとめた情報をうまく紹介する方法を話し合う（高齢者がよく行くような銀行、スーパー、診療所などに置く、必要に応じて渡してもらう） など

【参考】協議体の活動について他の地域で実際に出た意見等

- ① **難しく考えないでやれることをしてみる**。昔ながらのちょっとした気遣いなどが広まるとよい。
- ② 元気なうちにできることをやる。**自分にとって将来あるといいなと思うことを今のうちに仕組みづくりして、自分に貯金ができる**とよい。
- ③ 色々と難しいところもあるかもしれないが、**とりあえずできるところから少しずつやってみよう**。
- ④ 意外とお互いに知らない老人クラブやサロンなどの**活動を相互にオープンに紹介**できるとよい。
- ⑤ 地域内の一つの町会がやっている「支えあいクラブ」も支えたい人、支えてほしい人に手を挙げてもらってできた仕組み。実績件数は多くないが、敬老昼食会に行けない人を車椅子で送迎するなどしている。例えば、この「支えあいクラブ」の協力者を地域内の全町会で募って地域全体での仕組みを作るなど、**既存の活動も有効に活用**できるとよい。